

新石狩市指定文化財

このたび、新たに市指定文化財に指定される予定の文化財があります。「紅葉山33号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)」(写真1・2)です。

この弓は、約2千年前の漆製品で、日常的な狩猟具ではなく儀礼用とみられるものです。弓の木質部分は朽ちて失われていますが、弓面全体に塗られていた漆の膜が土圧でつぶれた状態で残されています。塗膜の厚さは1mmにも満たない繊細なものです。両面にわたり色や文様がはつきりと残されています。

最も特徴的なところは、弓の11カ所に施された文様帯です。渦巻文を基調とした構図ですが、各所で微妙

に異なるデザインで構成されています。各地から出土した漆塗り弓についても調べましたが、道内のみならず、全国的にも弓に文様を線描した出土例はほとんど確認されておらず、大変希少なものとなっています。

また、令和6年度に国立アイヌ民族博物館との共同研究により、CT調査や高精細撮影による分析調査を実施しました。高精細画像では文様帯の詳細を確認し、CT調査では塗膜内部にわずかに残された弓の製作技術や装飾技法を考える上で手がかりとなる痕跡を捉えることができました。これらの調査方法は、発掘された1982年

時点では難しかった技術で、実物資料を将来に向けて保存してきたことで実現できた新たな成果といえます。今回、市指定文化財となることで、今後も貴重な文化財として保存・活用され、新たな発見や解明につながることを期待されます。

いしかり砂丘の風資料館では、指定を記念して特別展を開催予定(7月2日～11月3日)、また記念講演会を市民図書館で開催予定です(7月13日、8月24日)。この機会にぜひご来場・ご参加ください。

(荒山千恵)

※イベントの詳細は、広報紙・市HP・ポスターなどをご確認ください。
※本稿は6月10日時点のものです



写真1 紅葉山33号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)
全長(現存部)105cm、幅3cm
所蔵:石狩市教育委員会



写真2 紅葉山33号遺跡の漆塗り弓に施された文様帯

※写真1・2:国立アイヌ民族博物館撮影



専門分野は考古学。遺跡の調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。